

# れいめい

2010年10月（秋号）

〒869-0502  
熊本県宇城市松橋町松橋1455番地1  
TEL 0964-32-3111  
FAX 0964-32-3112  
<http://www.reimeikai.jp/>

## 宇賀岳病院理念

『私たちはまごころをもって  
信頼の医療を実践し地域に貢献します』

## 基本方針

- 『常に情報を公開し、開かれた医療を実践する』
- 『医療機関・施設と密に連携し、  
地域の住民に質の高い医療を提供する』
- 『地域ニーズにあった診療科目と  
診療内容の充実に努める』
- 『医療の安全性を高めるよう自己啓発に励む』
- 『魅力ある職場づくりを目指す』



日本医療機能評価機構

風林火山

副理事長

中村亮



「厚労省から出る耐震構造補助金を得て、新築移転したい」昨年秋の理事会で、清水寛理事長の提案に、全理事が賛成しました。

まさに風林火山、千載一遇の機会を得ました。昭和五十九年七月一日開院以来三十年近くすぎた現在地を離れることは、一抹の寂しさも覚えませんが新時代に向かって新たな出発をするには新天地を求めざるべきです。道の駅の隣接地で絶好の位置に広大な敷地を得て、着々と準備を進めています。平成二十四年の秋には完成予定です。地権者や県庁、銀行との交渉には難渋する場面もありましたが、多くの方々の協力を得て前進していきます。更なる御支援・御協力を

切にお願いしたいところで、建設会社も決まり工事も始まりますが安全に完工することを願っています。

さて私達は「地域の中核病院の実現」を合言葉に努力してきましたが、山登りにたとえればまだ三合目位だと認識していません。更に、頂上を目指して一歩登っていかねければなりません。「社会医療法人」「地域医療支援病院」の実現、増科・増床、人材獲得、電子カルテ、PETCT他先端医療機器の導入など幾多の課題があります。一つ一つ実現していきたいと思えます。

世は、「医療戦国時代」「選択と集中」といわれます。「実績」を上げ積み重ねていくことが必要です。

「一人ひとりの患者さんの心」を感得し、誠意を持って実行することが大切であります。全理事、全職員と共に全知全能、全身全霊を打ち込んで宇賀岳病院の発展に尽くして行きたいと思えます。

地域の皆様方には、大変お世話になっております。今後とも絶大なる御支援・御協力の程、切にお願い申し上げます。

# 宇賀岳病院接遇マナー研修

講師に高木奈穂先生をお迎えして

去る6月5日に接遇マナー研修が開催されました。土曜日の午後4時間という長時間にもかかわらず82名もの参加がありました。研修を終えての感想として左記のような声も聞かれました。

- ・時間があっという間に過ぎて貴重な研修会となった。
- ・自分自身の行動・行為の振り返りができた。明日から役立てていこうと思う。
- ・日常の生活面、職場での活用などためになった。実行に移していきます。
- ・職場でもう一度自分なりに実行していい職場を作っていきたい。
- ・私は無意識のうちに患者様に対し口調が荒くなってしまい周囲のスタッフから教えてもらった事がある。また、いつも心に余裕がなくバタバタしている事が多いため、患者様や周囲のスタッフに不快な思いをさせてしまっている事を今回の研修で改めて感じることができた。

## 接遇の基本3原則

言葉

話す速度・間など  
敬語・言葉使い

行動

挨拶・動作・態度

外見

顔の表情・身だしなみ

## 《継続は力なり》

3ヶ月たちましたが、  
今もがんばってます。



### 中央放射線室

職場内に笑顔が増えています。口角を上げた笑顔のスタッフが患者様に対応しています。口角が下がらないように、自宅で訓練しています。今後も笑顔あふれる職場を維持していきます。

### 検査科

接遇研修を受け、普段の身だしなみや患者様への言葉遣い、特に話しかける際の姿勢や顔の高さに注意して接しています。時々、あの4時間の研修を思い返して、各自の接遇に対する意識を見直していきたいです。

### 栄養科

栄養科内での勉強会にて伝達講習を行い、栄養士・調理師全員が「接遇とは相手を思いやる気持ちを言葉や態度、姿勢で表現すること」という先生の言葉を胸に、身だしなみや言葉使いに注意しながら日々業務に取り組んでおります。皆で意識することによって現場の雰囲気もよくなっていると感じます。今後も研修で学んだことを忘れず、継続していきたいと思えます。

### 医事課

・笑顔で対応するようこころがけるようになりました。  
・患者様の立場で対応するよう、今以上に努めていきます。  
・患者様の目線に合わせて話を聞くようがんばっています。

### 外来

患者様はもちろん、職員間でも、「はい」と気持ちよく返事をして、対応するようにしています。笑顔で挨拶をし、会話をする際は目線を合わせるようにしています。

### 看護部

患者様だけではなく、家族の方や面会の方に対し笑顔で挨拶を行う事を心がけています。

### 中央手術室

術前後の訪問の際、ベッドに休んでおられる患者様と会話する時、今までは上から話すことが多かったが、研修後は目の高さを合わせるようにスタッフ全員で意識して取り組んでいます。

お返事を外来待合室に提示しております



いつも貴重なご意見ありがとうございます。すべてがご期待に添えないこともありますが、地域の皆様から愛される病院を目指して職員一同がんばっております。接遇委員会



### 地域医療連携室

患者・家族様に声を掛けるときは必ず挨拶・名前の呼びかけを行うように心がけてます。言葉の語尾や使い方、方言が混じらないようになど気をつけて話すようにしています。



### 事務部 医事課

医事課では医療事務専門学校生を年に1~2名受け入れ、それぞれの学校のカリキュラムに沿った実習を行っています。実習前半は主に窓口における接遇を意識した指導を行い、後半は保険請求の初歩を体験してもらいます。特に、紙カルテでの保険請求体験は電子カルテが主流になりつつある今、良い経験として受けとめてもらえることと思います。

定期的に学生さんの真直ぐな気持ちに触れることは、課員の初心を忘れない意欲にも繋がり、今後も多くの受け入れを実施していきたいと考えています。

文責：上村佳史

### 看護部1病棟

学生の対応は自分が試されている様で大変緊張して臨んでいます。金の卵に夢と希望が与えられる様にとする気持ちと、業務や書類のはざまで格闘する日々です。

前半の学生に対応し、人を育てる事は自分を知って対応する事が必要だと感じています。ほめ方にもしかり方にも自分の癖があり、学生にも個性があるのでそこに対応できる様にとするこの頃です。

文責：鎌田宣佳

## 教育機関病院として

= 実習生を受け入れて思うこと =

### 看護部3病棟

指導を行って実習生の気付きが新鮮に感じる事が多くあります。毎日の業務として定着している事一つ一つ意味があると云う事。

看護の視点も自分では思い付かない気付きもあり実習生と関わって、日々業務に追われる中 立ち止まって考えさせられる事・学べることも多くあります。

新人看護師の離職率は高く、原因として実習時間の短縮や法的な問題で経験することのないままに仕事に就きギャップに悩まされる事といわれています。

実習期間がいかに大切なものかを常に考え後輩の育成に関わっていけたらと思います。

文責：東 満美

## 『学生時代の苦い思い出』



P.N → 若年ババア



### 看護部5病棟

指導にはエネルギーを要しますが、学生と一緒にいるだけで患者の表情が良くなったり、退院した受け持ち患者にもっと関わりを持ちたかったと涙する学生をみて、限りある期間に心のこもった看護を行う事の大切さを感じました。

文責：馬場妙子

### 看護部2病棟

学生指導を担当して、毎回学生達の真面目さと、ひたむきに実習に取り組む姿に感心しています。日を重ねることに深まっていく気付きやアセスメントの内容に、学生の学びを感じた時、嬉しかったり逆に最後までサポートできるか不安もかかっています。

「因果応報」とにかく不真面目だった自分の学生時代、そのツケが今、学生担当となって戻ってきているのかと反省するばかりです。

文責：三苦ゆかり

### リハビリテーション部

リハビリテーション関連職種養成校からの臨床実習生の受け入れを行っています。

学生は、1年生の見学実習から、2・3年生の評価実習、3・4年生の長期実習と目的と期間も様々です。

それぞれの目的に合わせた指導を行うのは大変ですが、学校での机上の勉強では経験できない大きな壁にぶつかった学生に、毎日指導・アドバイスを与えながら、一つずつ壁を乗り越えていく手伝いをします。

そうして半人前くらいの療法士に成長していく過程を見守る中で、自分も成長していけるのだと感じています。

学生を指導するためには、中途半端な知識・技術では説明も指導も行えません。自分の専門分野に関しての知識・技術を再確認する好機会になります。

学生と一緒に悩み勉強しながら、一つの実習指導を終える頃には、また自分も一回りでも二回りでも成長していけるように努力したいと思います。

文責：山口里美

### 栄養科

栄養士の実習期間は1週間・2週間と比較的短くあっという間に終わってしまいます。その間、病院給食の運営、患者様の栄養管理、栄養指導の実際などを臨床の場で学びます。指導する時間が限られているので「特に今回の病院実習で学びたい、したい事」を予め提出して頂き、できるだけ要望に沿った時間割を組み立てていきます。学生も必死ですが受け入れるほうも責任を感じています。

実習を終えて「是非、病院の栄養士になりたい」という気持ちの学生が増えるような指導、努力が必要だと、日頃感じています。

文責：野村千津子

## 新任医師紹介

### 中野 章医師

はじめまして、中野 章と申します。昭和23年生まれのスズミです。まさに、団塊世代の真ただ中です。プロになって39年経過していますが、ほぼ半分を大学、公的病院、残り半分を個人医療機関に勤務し、へき地医療も経験してまいりました。これらの経験が多少でもお役に立てれば、と思っております。髪の色合いで多少実年齢よりふけて見えますが、まだまだ元気なドブスズミです。チョコチョコ動き回るかと思いますがよろしく願いいたします。



### 中村亮斉医師

こんにちは。  
2010年4月からお世話になっております、内科・循環器科の中村亮斉です。12年ほど、卒業大学のある宮崎県で、循環器を中心に救急医療や研究に従事して参りました。



いろいろ思うところがあって、このたび郷里の熊本、しかも生まれ故郷の松橋に帰ってきました。出身小学校は豊川小、中学校は松橋中です。同窓生はどうぞ声をかけてください。先輩なら敬いますし、後輩なら威張ります。少年時代とは随分町並みも変わりましたが、時々懐かしい顔に出会ったり、知り合いのおばあちゃんが入院したりすると、地元に戻ってきたなあ、と実感します。

頑張ってこの地域の医療に貢献していきたいと思っています。どうぞよろしく願いいたします。



## 予防接種で防ぐことができる病気

名誉院長 小児科

村上 幹彦



今、病気になるから治療するより病気にからさないようにしようという

予防医学が注目されるようになりました。これは病気の予防に力を注いだほうが治療に使う費用より安く済むし、休業、休学などの社会的・個人的な経済損失や生活の質の損失も防ぐことができるからです。代表的なものがある生活習慣病の健診・指導ですが、感染症においてははるかに効率が良い予防接種があります。

最近、ヒブワクチン、小児用肺炎球菌ワクチン、ヒトパピローマウイルスワクチンが、我が国でも使用できるようになりました。ヒブとはインフルエンザ桿菌bという細菌で乳幼児にとっては肺炎球菌と並んで全身性に重症の感染症を起しやすく、中でも細菌性髄膜炎による死亡、脳の後遺症など悲惨な結果をもたらすことがあります。この二つの細菌感染を予防するだけで、細菌性髄膜炎にかかる危険からほぼ逃れることが

できます。ヒブワクチンは生後2ヶ月以上5歳未満、小児用肺炎球菌ワクチンは、生後2ヶ月以上9歳以下が対象になります。ヒトパピローマウイルスは成人女性の子宮頸がんの予防を目的として10歳以上の女性に接種されますが、もっとも効果的なのは11歳から12歳での接種とされています。

従来からの予防接種の種類には、定期接種一類として、DPT、ポリオ、麻しん・風しん、日本脳炎、結核、二類として高齢者のインフルエンザ、任意接種として、インフルエンザ、おたふくかぜ、水痘などがあります。

たくさんあるようですが、実は、予防接種に関して日本は世界中でもっとも遅れた国という定評があります。それは諸外国に比べて種類が少ないこと、接種回数が少ないこと、そして何よりも接種率が低いことです。他国のように接種費用を全額公費負担とするように国の制度を改善することが望まれ、日本医師会でも本年9月からキャンペーン活動を実施しますが、国民の意識改革も必要です。自らの身を守るために、予防接種を受けて下さい。  
わからないことがあったら小児科外来看護師にお尋ね下さい。